

平成27年度 府立久美浜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校計画の重点 (短期経営目標)
<p>本校の歴史と伝統を踏まえ、校訓「意欲、克己、創造」の精神を培い、個性を生かし社会に貢献できる若者の育成を目標とする。</p> <p>1 総合学科の特色を生かし「社会で求められる力」を育てる。</p> <p>2 地域貢献する活動をとおして、生徒の自己肯定感・有用感を育む。</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 久美高手帳を導入し、自分の生活や学習状況を意識する土壌ができた。</p> <p>(2) 「輝きプラン」をとおして、専門的な学びを深め、体験的な活動の充実を図ることができた。</p> <p>(3) 地元の祭りやボランティア活動に参加し主体的に係わることで地域貢献を果たし、生徒の自己有用感をはぐくめた。</p> <p>(4) 総合学科独自の教科「産業社会と人間」や系列の特色をより充実させるために先進的な事例を学ぶことができた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 家庭学習時間を増やす。</p> <p>(2) 3年間を見通したキャリア教育・人権教育の構築を図る必要がある。</p> <p>(3) 教科「産業社会と人間」に係わる指導の充実を図る必要がある。</p> <p>(4) 学習の成果をまとめ発表する力をはぐくむ指導を充実させる。</p>	<p>1 授業改善の推進</p> <p>(1) 基礎・基本を重視し、学力の定着を図るため、観点別評価を踏まえた指導と学習評価を実施する。</p> <p>(2) 実験・実習・体験活動等の学習を充実する。</p> <p>(3) 生産科学や福祉系列では地域や関係機関との連携を強化する。</p> <p>2 生徒の意識改革</p> <p>(1) 手帳の活用により生活改善や学習意欲を高め自己管理能力を育成する。</p> <p>(2) 資格取得を奨励する。</p> <p>(3) 部活動の加入率をアップする。</p> <p>(4) ボランティア活動を活性化する。</p> <p>3 産業社会と人間・LHR・総合的な学習の時間等の計画的な指導とキャリア教育の充実を図る。</p> <p>4 IHの取組をとおして生徒の自己有用感を高める。</p>

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価			成果と課題
			前期	後期	年間	
組織運営	生徒の学力の着実な定着に係る取組の充実	京都フロンティア校支援事業の取組、特に「産業社会と人間」に重点を置き、「社会に求められる力」の育成を柱としたキャリア教育の充実につなげる。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」をキャリア教育の視点から再構成し、生徒に対して、自己の将来についてより深く考えさせることが出来た。 ・若手教員を中心とした研修組織を立ち上げ、研修の充実を図ろうとした。計画的な研修を構築していくことが課題である。
		生徒に寄り添い、生徒の視点に立った授業の改善に取組み、生徒の学力の着実な定着を図る。	B	B		
		若手教員の育成を中心に、さらなる授業改善のための校内研修の充実と、研修会への積極的参加を促す。	B	B		
家庭・地域との連携	家庭・地域の信頼を深めるための取組の推進	家庭・保護者や関係機関との連携を密にし、学校と家庭・保護者の一致した協力体制による生徒の成長をはかる。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は高校総体での活動を中心に生徒によるボランティア活動や教員による地元小中学校での出前授業などを積極的に展開することが出来た。
		地元小中学校等への出前授業、体験授業の受け入れや地域への様々なボランティア活動に参加することにより、自己有用感をはぐくみ、地域との連携をより深める。	B	B		
総務企画部	P T A活動の活性化	本部役員・学級委員を中心に各種行事を盛り上げるとともに参加者の増加を図る。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・球技大会は都合により中止したが、ほぼ例年通りの行事を行った。学校祭模擬店など学級委員を中心にはたらきかけていただき、多くの参加が得られた。 ・新企画のビンゴなどにより貸出冊数は増加した。生徒一人あたりの貸出冊数は府の平均を2倍以上上回っている。 ・館外図書の新設も利用者増など一定の効果が見られた。 ・府立図書館からの移管により授業支援に関する本を多数補充できた。
	学校図書館の充実	読書や学習支援を意識した本の特集を行うほか、校内での本の紹介等の機会を増やし、図書館の利用を高める。	A	A		
		公共図書館との連携により、図書資料の質・量ともに充実を図る。	B	A		
		また、各種コンクール等、社会参加の情報提供、支援に努める。	B	B		
広報活動の推進	ホームページの継続的な更新ができるように取り組む。学校行事等タイムリーな更新に心がける。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・HPでは多くの行事をアップできたが、アップできなかった行事もあるので、教職員皆で関わる意識や体制づくりが課題である。 ・久美高だよりは毎月発行できた。4回の新聞折込版も発行できた。メール配信は 予定通り実施できている。 	
	久美高だよりを月1回（毎月20日予定）発行し、学期に1回は新聞折り込み地元地域に情報を発信する。また、学校情報メールも月末を中心に1回以上配信する。	B	B			

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価			成果と課題
			前期	後期	年間	
事務部	府民に信頼される学校事務の遂行と学校経営への積極的な参画	窓口業務を親切、さわやかに行う。	B	B	B	・予算の執行について、早期執行を心がけ、効果的に行うことができた。
		学校経営計画に基づき、各種事業の予算執行を早期に効果的に行う。	A	A		
事務部	安心・安全な教育環境の整備	不用品の廃棄及び整理整頓を積極的に行い、校舎内外の美化に努める。	A	A	B	・廃棄物の処分を積極的に行い、校舎内外の美化・整備に努めた。 ・職場巡視を行い、危険箇所の早期発見・修繕を行った。
		日常的な安全点検の実施により、危険箇所を早期に発見し修繕を行う。	B	B		
教務部	学習時間の増加	学習時間の増加に向け、各定期考査前に学習時間調査を実施し、結果の分析を行い、学校全体の学習時間の増加に向けての取組につなげる。	B	B	B	・各定期考査前に学習時間調査を実施し、職員会議で分析結果を報告した。2学期期末前には学校全体での学習時間が例年に比べると増加した。 ・授業規律を乱したことで報告があったことに対しては学年団と共に指導した。しかし、授業規律に問題があるものの、報告がなく、十分な改善が見られない講座もあるので、学校全体で授業規律を改善する方策を考える必要がある。
	授業規律の確立	落ち着いて授業が受けられるよう、環境整備に努める。授業規律を乱す生徒に対しては、指導体制を整えて対応する。	B	B		
生徒指導部	問題行動の起こらない学校づくり	生徒とのコミュニケーションを増やし、「良い行い」は褒め、「悪い行い」はきちんと指導をする。	B	B	B	・物事の善悪について時間をかけて指導をしてきたが、問題行動の起こらない学校づくりが達成できたとはいえない。 ・本入部をする生徒の増加に努める活動が十分ではなかった。 ・ボランティア活動と地域との交流も例年通りの活動になり、自己肯定感を十分に育むさらなる働きかけができなかった。
	生徒の主体的な取組	1年生の全員仮入部の実施及び、本入部をする生徒の増加に努める。 ボランティア活動や地域との交流を増やし、生徒に自己肯定感や有用感を育む。	B	B		

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価			成果と課題
			前期	後期	年間	
進路指導部	希望進路実現に向けての個別指導の充実	生徒・保護者との面接・面談を充実させ、適切な進路指導を行う。 ----- 入退室などのマナー指導を充実させる。	B	B	B	・就職指導、進学指導ともに、進路実現に向けての生徒・保護者との面談を行うことができた。マナー指導については、今後も徹底して指導していく必要がある。
	キャリア教育を念頭に置いた計画的な進路指導	他分掌との連携を図りながら、卒業後の生活も見据えた進路指導を行う。	B	B		
保健部	食生活を通しての基礎的生活習慣の確立	生徒の食生活（特に朝・昼食の摂取状況）の課題をみつけ、食生活を改善するキャンペーンを行う。また、しっかりと昼食をとるように調理方法等を提案する。	B	A	B	・今年度初の取組として「朝食・昼食改善プロジェクト」を立ち上げ、2回の調理実習を実施することができた。 ・欠席過多の生徒の交流が遅く緊急の会議が多く負担をかけた。生徒のSC利用はあるが、教員の利用や相談が少ない点、気になる生徒について外部機関を積極的に活用する取り組みが少ないので、今後改善していきたい。
	教育相談生徒に関する情報交流ならびに教育相談会議の充実	生徒の状況について、教員間の情報交流を密に行い、スクールカウンセラー及び専門機関と連携した教育相談を行う。	B	B		
人権教育	人権教育の構築	学年部や他分掌と連携し、人権学習に取り組み、人権教育の構築を図る。	C	C	C	・学年部、分掌、教科との連携をとり、1年間を見通した計画を立て、また、本校にはどのような人権教育が必要なのかを学校全体で考えることが必要である。
		産業社会と人間、LHR、総合的な学習の時間等の計画的な指導のもとに、生徒の人権問題についての正しい理解や認識を深める。	C	C		

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価			成果と課題
			前期	後期	年間	
1 年	生活習慣と学習習慣の確立	保護者との連絡を密にし、遅刻・欠席の防止に努める。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初から多くの生徒が指導を受ける中で、授業態度や身だしなみなど、少しずつ改善されつつあるが、日常的な挨拶をはじめ不十分な点も多々あり、3年間を通じた地道な指導が必要である。 ・担任による日々の教室点検で学習環境の美化ははかられており、また定期考査前学習時間も漸増傾向にあるが、今後は生徒自身の環境美化への意識啓発が課題である。
		身だしなみを整え、挨拶ができるようにする。	C	C		
教室内の整理整頓など、学習に集中できる環境づくりに努める。		A	A			
他分掌と連携した個々の生徒の実態把握に努め、適切な学習指導・生活指導を行えるよう努める。		B	B			
新しいものに挑戦する力、困難に立ち向かう心の育成	「産業社会と人間」の授業における取組を通して、自身を取り巻く社会の仕組みに関心を持ち、それが抱える問題点やその解決のための方策を模索する中で、職業意識や問題解決の力を養う。		B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」では、1学期の職場体験、2学期の社会人交流会、3学期の課題研究の取組を通して、職業意識を持ち、地域との交流に意義を感じた生徒もおり、一定の成果はあったと思われる。 ・部活動および学校行事参加においては、今後、関係分掌や顧問の先生との連携を密にし、生徒の動向を把握し、生徒個々の意義ある活動につながるよう見守っていきたい。
		部活動加入率を向上させる。	B	B		
		ホームルームの活動や学校行事等を通して、生徒相互の交流を深め、集団で活動する意義を感じ取らせる。	B	B		
2 年	自立・自律した生活の確立と、協調性の育成	身だしなみや挨拶の励行等、や基本的な生活習慣を確立させる。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみは目立った乱れはなくなってきた。遅刻もほとんどないが、固定の数名が常習化している。挨拶が不十分だがマナー講習会にも絡めて指導していきたい。 ・文化祭、体育祭、修学旅行、持久走とよく協力し成果もあった。
		規律ある行動や平和を尊ぶ姿勢をはぐくみ、学校行事や修学旅行を自分たちで成功させる力をつけさせる。	B	A		
	自己肯定感・有用感の育成	教科担当者や家庭との連携を密にし、授業規律や提出物等のサポートを図り、成績の向上を目指す。	B	B		
		資格取得に積極的に取り組ませ、努力の結果を形にすることで充実感を味あわせる。	C	B		

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価			成果と課題
			前期	後期	年間	
2年		ボランティア活動やインターハイの取組への積極的な参加を促す。	B	A		・漢検、数検の受検者は増えてきたが、GTECの2回目が修学旅行と重なり実施できなかった。公開日の公式スコアでなくても利用価値があることがわかったので、計画的に実施したい。また、英検との関係もあるが学校の取組して扱えると良いと思う。 ・インターハイについては大変良く取り組んだ。
3年	社会の一員としての自覚の促進と、社会的マナーや規範意識の確立	身だしなみや挨拶の励行に努め、基本的な生活習慣を確立させる。	B	B	B	・身だしなみについては、多くの生徒は意識を持って行動できた。挨拶・化粧は、課題が残る。 ・学習環境については、年間を通じて指導してきた。進路決定後、気が抜けてくる生徒もいるが、卒業まで粘り強く指導していきたい。
		学習環境を整え、保護者や教科担当者と連携を密にし、授業規律や提出物等のサポートを図り、学習習慣を確立させる。	B	B		
	学力の充実による、生徒一人一人の進路の実現	総合的な学習の時間や進路講習を活用し、個々の生徒の希望進路の実現を図る。 資格取得の奨励と手帳の活用を継続して行い、卒業後の進路に役立つよう指導する。	B	B		・進路希望の実現へ向けては、各分野ごとに分かれ、取り組み、多くの生徒が達成できている。
農場部	農業関連諸機関や関連団体等、地域連携の促進	地元農家（本校OB）や農林行政機関、小・中学校、JA、大学等との連携を密にし、教育効果を上げるとともに地域に貢献する活動を行う。	A	B	A	地域をはじめ多くの方々との連携を図り、例年以上の取組を実施することができた。新たに援農活動を取り入れた。 また、これらはもれなく広報活動を行うことができた。
	広報活動の推進	HPをはじめ、各種広報紙への掲載、有線放送等の広報活動を充実させ、農業教育の様子を積極的に情報発信する。	A	A		
福祉部	実習指導・体験活動の充実	実習先の新規開拓をする。実習指導について実習先との連携に努める。	B	B	B	・新規実習先を開拓できた。 ・年度後半、一部の生徒に欠席が増加し、専門的な学習に困難さが予測される生徒への系列選択時・初期からの指導が課題である。 ・購入書籍は生徒に活用され意欲向上に役立った。
		体験活動・学習の機会を増やす。	B	B		
	学習意欲を高め全員の研修修了を目指す。	出席管理と補習対応を厳密に行い、資格取得への意識向上を図る。 書籍など関連教材を充実させ、意欲の向上を図る。	B	C		

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価			成果と課題
			前期	後期	年間	
国 語	基礎力の充実と進路実現に向けた指導	進学講習や基礎学力補充を実施し、また問題集等を利用して家庭学習の定着を図る。	B	B	B	・進学講習の実施は予定通りでき、生徒も努力したが、成果が表れるまでは定着が難しい。
	言語活動の充実を図る取組の実施	外部コンクールへの参加を図る。 総務企画部と連携して読書活動の推進を図る。	B B	B		・京丹後市の短歌コンクールに応募し入賞した。生徒の励みになるよう、応募を増やしたい。 ・朝トレ時の読書のあり方について、もう一度確認が必要な時期に来たのではないか。（読書にこだわるか、小テストなども入れるかなど）
地歴・公民	基礎・基本を重視した学力の定着とそれに伴う指導の徹底	指導方法の交流を図るとともに生徒の学力状況を把握し、基礎・基本と発展的内容のバランスを考えた授業を展開する。 提出物を確実に出させる。（100%提出を目指す）	B C	B C	B	・対策プリント等の課題により基礎・基本を身につける機会を設けたが、提出の徹底にまでは至らなかった。相互に授業参観するなど、指導力の向上を図った。
	生徒の興味・関心を引き出し生徒が主体的に授業に取り組むための教材開発	グループワークなどの体験的な活動や視聴覚教材、実物教材、新聞などを利用した授業や自ら設定して行う調べ学習などの研究・開発を推進する。	A	A		A
数 学	基礎的・基本的内容の確実な定着と数学への興味関心の喚起	校内標準テストグランプリを活用し、生徒の実態に即した授業を展開し、基礎的・基本的内容の定着を図ると共に、視聴覚教材等を用い生徒の興味関心を引き出す授業を工夫する。 京都・大阪数学コンテスト、数学オリンピック(予選)、数学文化セミナー等の参加を推奨し、数学検定等の資格取得を推進する中で、数学の深さや広さに触れさせる。	— B	B A	B	・久美高標準テストGを実施し、グランプリ・講座奨励賞等各賞を与えた。京都数学コンテストに5名の参加、オリンピック(JMO)及びそれに向けた府が主催の道場に積極的に参加させることができた。数学検定3回実施。
	指導法の研究・交流の促進と教科全体の指導力の向上	校内研究授業週間の活用や教科内授業参観週間の設定等により教科内研修や情報交換を積極的に行い、授業改善や指導内容についての深化を図る。	B	B		・研究授業、公開授業により教科内研修を図ることができた。週1回教科会議を持ち情報交換を密にした。設定目標に課題が明確化。
理 科	授業に対する動機付け、興味付け、意識付けの充実	視聴覚教材やプレゼンテーションソフトを取り入れた授業展開を工夫する。 実験や実習方法の工夫と改善に努める。	B B	B B	B	・一部の科目で視聴覚教材を取り入れた授業を実施できたが、今後は他の科目でも実施できるように教材研究をしなければならない。 ・実験については例年並に実施できた。今後も新しい実験を取り入

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価			成果と課題
			前期	後期	年間	
理 科						れる努力を必要とする。
	指導力の向上	公開授業を定期的実施し、指導方法の交流を図る。	B	B		・1学期の公開授業週間に合わせて全員で行った。
保健体育	心身についての理解の促進と生涯にわたる運動への親しみの態度の育成	スポーツを通して達成感を体現させる。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼできた。 ・研修は出来なかったが、1学期全授業公開をしたり、協力して授業を進め意見交換できた。今年度は、保健の全講座で「ワーク」による授業を実施した。 ・意欲を持って入学した前期選抜の生徒がしっかりと活動できるよう、多くの教員が部活動に出られる環境づくりが課題。 ・部活動として実施できた。 ・インターハイについては多くの生徒が関わり良い経験ができた。
		計画的な研修を実施し、指導力の向上を図る。	B	B		
		健康的な生活習慣を送るための指導を行う。	B	B		
		部活動の活性化に配慮する。	B	B		
		出前授業、合同練習会の積極的実施。	B	B		
	インターハイの取り組みを通して、生徒の自己肯定感・有用感をはぐくむ。	B	A			
授業や体育的行事における事故防止と安全教育の徹底	事故を防止する安全教育を徹底し、安全に対する行動力を身に付けさせる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業において、安全についての指導を1年間を通じて行った。施設・設備は事務部にも協力をいただき、倉庫の整理や補修をしていただいた。今後も日常点検をしていく必要がある。 		
定期的な施設設備の安全点検を実施する。	B	B				
事務部と連携し、施設設備の改善に取り組む。	B	B				
芸 術	生涯にわたる芸術を愛好する心情の育成と自己肯定感を育む授業の展開	発表の機会を積極的に設定し、目標に向けた活動ができるように授業を計画する。また、体験的な授業の中でも、芸術としてのよさを学ぶことができるように、授業の展開を工夫	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・地域の文化祭での作品展示や、授業内での発表会をすることができた。今後は、視覚教材等を使って、授業展開の工夫をしていきたい。教室や道具の使い方についての指導が課題である。
英 語	言語や文化に対する理解を深め、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。	基礎・基本を重視して学力の定着を図りながら、言語の使用場面や働きを適切に組み合わせることによって、効果的な学習活動を展開する。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1年では、マナトレを1学期当初の授業に取入れたが、内容や期間について、またレシテーショングランプリは、さらに意義ある充実した活動になるよう、今後も協議しながら取り組む必要がある。
		レシテーショングランプリの成功に向けて、課題の大切さを理解させ、生徒の達成感を味あわせる。	—	B		

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価			成果と課題
			前期	後期	年間	
家庭	自分の生活の暮らし方について考えていく姿勢の育成	自立していくことを前提に具体的な課題を取り上げ、自分で生活する場面（実習を含む）をできるだけ設定する。	B	B	B	・生活に関して判断するのに必要な基礎的知識を学習できた。1年においては、実習時間を十分確保することが出来ず学習内容、進度ともに今後の授業計画についてが大きな課題である。
		課題、提出物を完全に提出させる。	B	C		
農業	魅力ある授業の展開	それぞれの科目の特性を丁寧に説明しながら、専門的な知識や技術の習得を図り、生産活動に臨む心構えを持たせ、社会人として通用する人材を育成する。	B	B	B	・例年以上の取組を実施し、すべて広報活動を行うことができた。 ・生産科学系列選択者数をより増加させ、2年次以降にスムーズに接続させることと農業系進路の開拓が課題である。
	生産科学系列生の増加	1年次の「農業基礎」の学習を中心に積極的に農業の素晴らしさをPRし、次年度の生産科学系列生を増やす。	B	B		
福祉	指導力の向上	公開授業に全員参加し、合評会の開催する。	B	B	B	・前期は全員が公開授業を実施。テスト問題の交流や、実習指導について学習をした。 ・成績不振者多くその対応に追われ、授業を発展的に補足する家庭学習課題設定に至らず。受験が3年後となる来年度以降モチベーションの維持が課題である。
	家庭学習習慣の確立と学力の向上	家庭学習課題を積極的に設定し、課題提出の指導を徹底する。	C	C		
		定期テストごとに成績不振者への指導を実施し、学力補充を行う。	B	B		
情報	情報や情報技術を効果的に活用する能力の育成	ワード、エクセル、パワーポイントなど基本となる各ソフトの基本操作やコンピュータの適切な活用を身に付けさせる。また、さまざまな教材・機会を活用し、情報モラルやマナーの指導を行う。	B	B	B	・生徒達は概ね興味や関心を示し、意欲的・積極的に学習に取り組んでいる。 ・情報モラルについては、新聞記事を多く活用している。 ・視聴覚教材がやや古くなってきているため、更新が必要である。
		コンピュータ室利用上の規約や提出物における締切日を守る指導を徹底する。	B	B		
商業	ビジネスやコンピュータに関する基本的な知識や技術の習得	身近な例や実社会の例をできるだけ多く取り上げ、生徒の興味や学習意欲を高める。また、新聞等の記事を取り上げ、自分自身の考えを深める。	C	B	B	・学習意欲を高める工夫を考察する。また、検定受験者をより一層増やす、今後、生徒の学習意欲に結びつくような授業の展開や改善をしたい。
	資格取得による目的意識の高揚の推進	全商協会に加盟するとともに、保護者へ資格取得への連絡を周知徹底する。生徒には、検定1週間前には、放課後の補習を行い、検定受験者の増加を図る。	B	B		

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・久美浜高校の様子を効果的に外部に伝えたり、直接中学生に広報する機会を設ける等、発信方法を工夫して、久美浜高校ならではの取組や久美浜高校の良さを中学生に分かりやすく説明し、中学生の獲得に繋げるべきである。 ・普段高校生と接する中で、反応が薄いことがある。挨拶が出来るようになることは高校生のみならず人として大事なことであるので、地域の人と気軽に挨拶が出来ることを目指してもらいたい。 ・今年度の交通安全マップの取組は良かった。生徒が地域に出ることが生徒の自信につながるのもっと積極的に行ってもらいたい。 ・中学との連携を更に強め、例えば、交通ルールの学習を高校生が小中生に行う教室の開催や中学校の職場体験の一つとして、福祉体験を久美浜高校で実施するなどの取組を行えば良いのではないかな。
<p>次年度に向 けた改善の 方 向 性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「京都フロンティア校事業」として実施した「産業社会と人間」の今年度の取組を検証しつつ、キャリア教育の充実のために、より効果的な手立てを講じていく必要がある。 ・多様な情報発信や地域・地元小中学校との連携の強化をし、地域での活動を通して、生徒の自己有用感を高める。 ・挨拶が気軽にできるような人間的成長を促す取組を行う。 ・在校生だけでなく中学生やその保護者から見て、魅力ある系列での教育内容への改善を推進する。